慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	日本の後発医薬品市場の現状分析と将来予測に関する一考察 - 研究開発型医薬品企業への将来戦略の提言 -
Sub Title	
Author	浅野俊孝(Asano, Toshitaka) 中村洋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1999
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1999年度経営学 第1483号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001999-1483

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	中村　　研究会	学籍番号	89828025	氏名	浅野俊孝

（論文題名）

日本の後発医薬品市場の現状分析と将来予測に関する一考察
－研究開発型医薬品企業への将来戦略の提言－

（内容の要旨）

高齢化の進展と経済の低成長に起因する医療保険財政の悪化が問題となっており、医療制度の改革が強く望まれている。わが国の医療用医薬品市場を米国やドイツと比較したとき、後発医薬品の活用が非常少ない。特許の切れた先発医薬品の代替品である後発医薬品は、効率的な医療の実現の為に本来充分に活用されるべきであるが、現在の薬価基準制度が内包する薬価差益の存在が、薬価の高い新薬を処方するインセンティブとして働き、その活用を妨げる一因となっていることが指摘されている。

以上の問題意識の下、わが国における潜在的な後発医薬品市場の予測と、海外とのインセンティブシステムの違い、後発医薬品市場の顕在化が研究開発型医薬品企業に及ぼす影響について考察した。考察にあたっては特許情報の他、米国、ドイツの事例を取り上げた。

研究の結果、後発医薬品市場の顕在化はわが国の研究開発型医薬品企業の業績に対して深刻な影響を与えることが予測された。しかし後発医薬品の顕在化の速さや程度は、医療制度改革も含め、今後どの様なインセンティブシステムが整備されて行くかに依存しており、将来の行方は予測が困難である。

研究開発型医薬品企業は、まずは研究開発の強化、グローバル化による収益の最大化、知的財産の保護強化等、新薬による収益確保を優先すべきであり、後発医薬品事業への参入は、一つのオプションとして今後の情勢に応じて考えるべきであるとの提言を行った。